

(様式2)

校種	①・中 どちらかに○	学校番号	40	学校名	宇都宮市立城山西小学校
----	---------------	------	----	-----	-------------

## 平成31(2019)年度 学習指導に関する取組

### 1 学習指導上の主な実態

(1) 国・県・市の学力調査などから

- ・国語では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」すべての領域で市の平均を上回った。「書くこと」において、一定の条件が設けられ、それに合う文章を求められる設問では、正答率が低かった。
- ・算数では、「数と計算」「量と測定」「図形」の領域において、市の平均とほぼ同等だった。「数量関係」の領域においては学年によって差が見られた。
- ・理科では、「物質・エネルギー」「地球・生命」両方の領域で、市の平均をやや下回った。観点別にみると、「観察・実験の技能」において市の平均を下回った。

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・授業や勉強に対して肯定的にとらえている児童が多い。教科によって好き嫌いがある児童が見られるが、原因としては、不得意さからくる苦手意識と考えられる。自分から進んで取り組むことに対して否定的な児童も見られる。
- ・家庭学習の時間は、平日の取組は、よくできている児童が多い。地域学校園で「宿題プラス1」を合言葉に取り組ませているので、どの学年も、しっかり取り組む児童が多く、全学年を通して「宿題の提出」はよくできている。しかし、個人差があり毎日の家庭学習に取り組めない児童もいる。学校が休みの日では各学年共に学校として提示している時間に満たない児童がいる。
- ・新しく習ったことを定着させるための復習の習慣化が、十分とは言えない。授業で習ったことをその日のうちに復習したり、テストで間違えた問題をやり直したりといった、目的意識をもった家庭学習の取り組みが定着していない。

(3) 授業等への取組状況から

- ・「英会話の時間」で授業研究を行い児童のコミュニケーション力を育てる授業を実践した。会話科で培う表現力やコミュニケーション力を他教科や日常生活に生かせるように各教科の授業においても工夫した取組をしてきた。特に、相手理解を意識した「聴く」態度を育てることに重点をおいて指導してきた。与えられた場面では結果を出せているが、それを日常生活の場で活かすまでには至っていない。
- ・朝の学習を2人の指導者で実施した結果、個に応じた指導の充実が図れた。
- ・校内漢字検定、100ます計算チャンピオン大会を実施した結果、児童が目標をもって練習に励み、漢字の習得を図れた。計算力の向上は個人差が見られた。
- ・朝の読書や読み聞かせ、親子読書リレーを計画的に実施したため、読書に対する関心を高めることにつながった。
- ・学力の個人差がどの学年も大きいので、習熟度別学習やT・Tによる指導を効果的に活用し、個に応じた指導を心がけた。

## 2 今年度の重点目標

- ・確かな学力を身に付け、共に学びあう子どもの育成
- ・家庭学習の習慣化（宿題プラス1）

## 3 今年度の取組（「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に★、「平成31年度指導の重点」に関する取組は文頭に□、授業における取組のうち重点は文頭に○）

### （1）基礎基本の確実な定着

- ・学び方や学習姿勢の定着（よい子の一日学習編）
- ★□○全学級TTでの朝の学習の実施（個別指導の充実を含む）
- 校内漢字検定、100ます計算チャンピオン大会の実施
- 全学級TTでの英会話タイム15分間の実施（高学年は時数にカウント）

### （2）学習指導の工夫改善

- 全国学力調査、とちぎっ子学習状況調査、学習定着度調査結果の公表
- ★□○学習課題をはっきり理解させ、見通しをもって課題にじっくり取り組ませる工夫
- 授業の終末において振り返る活動を設定する（一度学んだことを再確認させる機会）
- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた教材研究に努める
- ・T・Tや習熟度に応じた指導の工夫と改善
- ・「外国語活動・英会話の時間」の研究を推進する
- ・外国語活動・英会話の時間を中心に一人一授業の授業研究を実践する
- ・希望者参加のサマースクールにおける体験学習（夏季休業期間中）

### （3）読書活動の充実

- ★学級図書を設置および定期的な本の入れ替え（通年）
- ・朝の読書の時間の確保（通年）
- ・読書記録の実施（通年）
- ・校内読書週間の実施（11月）
- ・読み聞かせボランティアや6年児童による読み聞かせの実施（通年）
- ・親子読書リレーの実施（通年）

### （4）家庭・地域との協力・連携

- ・地域の教育環境を生かし、地域の人材の積極的な活用及び地域教材の自校化
- ★地域の方とのふれあいの場の設置（各教科、給食、地域合同運動会、古賀志山清掃登山）
- 学級懇談会で、小中一貫教育の関連から家庭学習の習慣付けについての啓発（7月）
- ・各種便り、ホームページ等で学校の取り組みの紹介、啓発（通年）
- ・文化人の先生方や各専門分野の協力者を活用した授業の実践（会話科、各教科、学校行事等）